

第3学年 社会科
◇「HIV 感染者・ハンセン病患者等」

単元名 「人権と日本国憲法」

目標

人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解させる。また、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現させる。現代社会に見られる課題の解決を視野に入れ、主体的に社会に関わろうとする態度を育てる。

人権教育の視点

基本的人権について考える活動を通して、ハンセン病に関わる人権侵害等の歴史や現状などの正しい理解と認識を深めさせる。

学習活動

「ハンセン病の向こう側」(厚生労働省資料)を読み取り、ハンセン病は治療法が確立されて治る病気になったにも関わらず、偏見や差別がなくならないことをつかむ。また、東京都の「多磨全生園」や「国立ハンセン病資料館」を取り上げて人権侵害等の実情に迫る。



第3学年 社会科
◇「北朝鮮による拉致問題」

単元名 「新たな時代の日本と世界」

目標

日本の経済の発展とグローバル化する世界について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。

人権教育の視点

拉致被害者、拉致被害者家族の現状を知り、その悲しみや苦しみに共感させることを通して、人権を尊重する心情や態度を育てる。

学習活動

拉致問題についての概要説明の後に、北朝鮮による日本人拉致問題啓発アニメ「めぐみ」を視聴し、考えたことや感じたことを発表する。



第3学年 保健体育科
◇「HIV 感染者・ハンセン病患者等」

単元名 「健康な生活と病気の予防」

目標

HIV やエイズに対する正しい理解を基に、HIV 感染者・エイズ患者に対する偏見や差別を解消するための適切な方法を選択し、それを伝え合うことができるようにする。

人権教育の視点

「HIV 感染者・エイズ」に関する正しい知識を学ぶことを通して、HIV 感染者・エイズ患者に対する偏見や差別の実態及びそれらを解消するための取組について理解させる。

学習活動

HIV 感染者やエイズ患者の現状や、エイズの発症を抑えられるようになったことを理解する。HIV 感染者やエイズ患者に対する偏見や差別について、感染者や関係者の立場になって考えられるようになる。



教職員の研修

令和4・5年度の2年間で教職員の人権感覚を磨くために校内研修を25回実施

研修会後には毎回アンケートをとり、研修会の振り返りや講師の先生への質問を募り、教職員のニーズに即した研修会をさらに企画。また、研修会にはグループワークを取り入れ、教職員間の考えや想いを、コミュニケーションをとりながら共有。

食べることは生きること～芝浦と場 食肉市場にみる人権問題～
講師:高城 順先生／人権課題:同和問題(部落差別)

障害者理解を通してユニバーサルデザインについて学ぶ
講師:佐藤 義竹先生／人権課題:障害者

思春期の生きづらさに教員としてどう向き合うか
講師:荘島 幸子先生／人権課題:女性、性自認、性的指向

LGBT とは…SOGI とは…正しい理解と大切にしなければならないこと 講師:進藤 夏葉先生／人権課題:性自認、性的指向

性的違和・性別不合についての動向と学校現場に求められること
(令和4年度新宿区中学校教育研究会:性教育部会勉強会)
講師:針間 克己先生／人権課題:性自認、性的指向

性の多様性の理解
(令和5年度新宿区中学校教育研究会:性教育部会勉強会)
講師:進藤 夏葉先生／人権課題:性自認、性的指向

性的マイノリティの人権課題と最近の動向について及びLGBTsの児童生徒の存在を認識した学校での取組
講師:日高 庸晴先生／人権課題:女性、性自認、性的指向

性の多様性への理解を深める
～学び合う教職員のコミュニティの形成のために～
講師:村田 晶子先生／人権課題:女性、性自認、性的指向

映画「カランコエの花」上映会
「LGBT」について、周囲目線で描かれた映画を教職員全員で視聴。
「LGBT」の理解と「多様な性」について考えるきっかけとなった。

検証授業(令和4年度6月・2月、令和5年度2月) & 校内研修会
講師の先生方に御指導・御助言をいただきました。
講師:池田 知先生、荘島 幸子先生、長島 寛和先生